

岡山竜操支部

みんなで支えよう 地域で子育て 子ども虐待防止のサポートに

岡山市では二年前、一歳児の長女が両親に放置されて死亡する事件が起こった。市ではこの事態を把握できなかった教訓を踏まえて、子どものSOSを見逃さない態勢づくりを目指す研修を、昨年八月から始めた。

岡山竜操支部では、「虐待防止のサポート」養成講座を受講して、社会員へ研修会の案内状を支部長名で配布した。

平成25年11月15日に、岡山市こども福祉課と地域こども相談センターから二名の講師に来ていただき、高島公民館で、子どもの虐待の現状や支援の在り方について研修を受けた。

岡山市では、子どもの虐待の件数が毎年増加している。一番多いものはネグレクト(不適切な養育)である。適切な食事を与えない、病気や怪我でも病院へ連れていかない、登校させないなど。二番目は、心理的虐待。言葉による脅しや脅迫、無視、差別的な扱いなど。



三番目は、身体的虐待。殴る、蹴る、戸外に締め出すなど。性的な虐待もある。

子どもの虐待の起こる原因は、子育ての悩みや不安、孤立、経済的な困窮など様々のものである。いろいろな原因が複雑に絡み合っており、家庭を支援していくことも必要に迫られている。

子どもの虐待は、家庭の中で起こるので、発見が困難なことが多い。

地域の住民として

外傷

○激しい泣き声

○家に帰りがたらない

○親の怒鳴り声、暴力

など、子どもや親の発するサインを見逃さないで、速やかに相談にのるようにする。

また、専門機関へ知らせることが大切だ。

子育て中の親を孤立させないためにも、声かけや見守りなど、一人一人にできる支援活動を始める。まず、自分のできることから行動して、地域の子どもの安全安心のために、一つ一つ実行していくことを話し合った。

地域で活動する

勝田支部

人との繋がりを大切に勝田支部女性部は、会員以外の地域の人も巻き込んで、黒豆プロジェクトを発案。森園枝さんから被災地訪問の話を聞いた。と、い、声があり、な、お読みください。

被災地福島を訪ねて

三年前の3月11日からは、昼も夜も何も手につかない状態でした。原発爆発！福島はどうなるの。35年前、夫の転勤先だった南相馬、いわきへの連絡のすべはありません。福島への思いは募るばかり。

震災から一年が過ぎ、小学校の同級生が同行してくれ、懐かしいでも実情を見るのが怖い、何の行動も起こせなかった自分が情けない、こんな思いで福島に入りました。

かつて住んでいた南相馬は、原発三十キロ圏内、震災後一ヶ月は避難指示が出ていました。多くの店舗はシャッターが降りたまま、公園には人の姿が、子どもの姿がありません。

飯館村は全村避難の地区です。家はきれいに残っているのに人の姿はありません。田んぼは、人の背ほどもある草に覆われています。

そんな現状を目の当たりにして何かしなければ、何が出来る、という思いが強くなりました。そこで思いついたのが「黒豆プロジェクト」での支援でした。植月恵子さんのグループ

植月恵子

森園枝

プをはじめたくさんの皆様の協力を得て、去年12月、二回目の黒豆支援をすることができました。去年は夫と二人で宮城、岩手、そして福島県浪江町に入りました。宮城、岩手の海岸はダンブや重機が動き、遅ればせながらも前に進んでいると感じました。

浪江では、「立入禁止」のゲートの前で車をUターンさせていたら、岡山ナンバーに気がついてくださり、ガードマンがゲートを開けて街に入れてくださいました。



福島県の海岸は荒野で時間が止まっているようでした。かつて子ども達を遊ばせた海岸も見つけることができません。二人して言葉もなく、目に見えない放射能を感じてきました。

「こんなことをしてます！」なんて大きな声は出せませんが、「命ある限り福島に寄り添っていき、これが私の思いです。今年もみんなで福島へ行きます。」